

- 1978年 ブラジルサンパウロ生まれ。
4歳の時からブルースリーに憧れて5歳から空手を習い始める。
- 1989年 日本の少子高齢化の影響、また製造業で働く若者が減っていることから、日本は過去に多くの日本人が移住した南米の扉を開き、日系人を受け入れ始めた。
その時、日系二世の父も仕事をするため日本に渡った。
- 1990年 入管法が改められ、母・兄二人・妹と一緒に来日。小学校入学後、「日本人みたいな顔をしているのになぜ！外国人なの？」「お前の日本語、気持ち悪いんだよ！」「お前は日本人みたいな顔をした外人だ！とっとと国に帰れ」と言われ、いじめを受けるようになる。
- 1993年 中学校に入学するが、いじめは一段とひどくなり、この時から「自分を守るだけの日本語の能力がないなら、もう自分の空手を武器にするしかない」と学校で喧嘩をするようになる。
- 1996年 働きながら勉強をするため、定時制高校に入学したが「この学校に外人がいる」と差別がどんどん拡大したことに耐えられず、暴力事件を起こし退学になる。その後、「悪いことであってもいい。初めて自由になった。生きてる気がする」と自分に言い聞かせながら非行に走る。
- 1997年 暴走族を結成し直後に傷害事件で逮捕されるが、反省せずどんどん勢力を拡大させる。
- 2000年 一人の企業社長と出会い、自分の生き方を変えようと思い始め営業の世界に入ったが、ここでも日本人ではないことが大きな壁になった。名前を言うと「外人さん？うち、いりません」で終わり。
- 2001年 父が病気になり、亡くなったことを自分が父を苦しめていたからだと自らを責め、自殺を考える。その後、事件を起こし再び、留置所や拘置所で過ごすこととなり、葛藤した末、あと1%は人間としての可能性があることを信じて社会に復帰する。
- 2002年 三重県・津市と松阪市の教育委員会の国際化対応教育指導員として、小・中学校を巡回して、日本語指導や子どもたちの相談サポートを行いながら、学校・一般・行政・企業などに対して自分たちの実態を一人でも多くの方々に理解を求めため、講演活動を開始させた。
- 2003年 松阪市人権施策基本方針会議委員また定時制高校（非常勤講師）を勤めると同時に通信制高校に入学。
反差別人権研究所・人権コミックシリーズ第四弾（在日世界人問題編）「アルコ・イリス～虹のかけはし～」のモデルになった。
- 2004年 松阪市において官民協働で多文化共生ネットワークが結成された。
- 2006年 特定非営利活動法人 多文化共生NPO世界人を立ち上げる。
従来使われている「外国人」と同じ意味だが、国と国とのボーダーはもはやなくなりつつあるとして「世界人」という名称をつけた。
また、将来的に日本人も外国人も同じ世界人として世界に目を向けられる子どもたちに育って欲しいという願いも込めている。